※令和４年度以降入学生用

学校番号	T3006

令和８年度　工業科（生活デザイン系列）

教科	工業	科目	実習Ａ（ＡＤ）	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

本実習では、建築や工業製品（生活用品）に関する課題作成のための基礎的な知識と技術を習得する。

作品例や身近な工業製品、住宅・店舗建築をよく観察してどのように作られているか考える習慣を身につけましょう。

製作技術や材料についての知識を学習して自ら考えた作品を作ることを目標にします。また専門に関する座学で学んだことを活用して学習の効果を高めるよう工夫しましょう。

2　学習の到達目標

・実習で使用する道具・材料の名称や使用法を理解するようにする。
・身近な生活のなかで使用する工業製品や建築、インテリアに関心を持ち課題制作に必要な技術と作業計画する力を養う。
・実習課題では工業製品や住宅建築をモチーフにコンセプトを立てて作品を制作する。デッサンやパース・模型制作を通じて、自らデザインした製品を提案する技術も習得する。また、作成した課題作品について製作過程や完成度について振り返りを行う態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	デザインや建築に関する基礎知識と学んだことを応用する能力があり技術的に対応できる。 工業デザイン、建築に関する基本的な知識と技術を身につける。 環境に配慮し、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用できる。	基本的な知識と技術を基に、技術者として適切に思考・判断する能力を身に付ける。 自ら計画した作品を製作して表現し他者に伝えることができる。 実習を通して現代社会における工業の意義や役割を理解している。工業の諸課題の解決をめざして思考を深めることができる。	実用性のある立体的な工業製品や建築を表現する手法に関心をもつこと。その改善・向上をめざして主体的に取り組もうとしている。 実習課題に対して主体的に興味・関心を持ち意欲的に取り組む態度を養う。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年	作品の理解・実習課題	・作品の理解 ・パース課題 ・模型製作	a:建築に関連する事柄についての知識と基本的な技術を身につける。 b: 各作業に応じて適当な用具を選択し、製作物を作成する方法・計画について思考・判断ができる。 課題作品の製作を通じて自分の考えを表現し他者に伝えることができる。 c: 建築について主体的に興味・関心を持ち,実習の作業に意欲的に取り組むことができる。 作業を振り返り問題点を改善しながら課題に主体的に取り組もうとしている。	作品の完成度 実習態度	作品の完成度 観察	実習態度 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度